

大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会 設立30周年記念シンポジウム～FACE 対面すれば、生まれる未来。～ 3月26日(火)開催

まちづくりをはじめ、テクノロジーやアートなどの著名な学識者や世界的アーティストも交え、まちづくりやイノベーション創発、最新テクノロジー、SDGs等、多分野で活躍中の方々を登壇者としてお招きし、まちづくりの枠を超えた幅広い視点から未来のまちの在り方について議論を繰り広げます。

プログラム

- 特別講演：都市再生 ～成果と未来～ 和泉洋人
- 大丸有地区のまちづくり ～丸の内の新生～から東京駅前の整備へ
伊藤滋／篠原修／中嶋利隆
- 2030年代の大丸有地区におけるエリアマネジメントにむけて
～SDGs達成にむけたダイナミック・パートナーシップ～
小林重敬／佐藤真久／藤井宏章
- 大丸有地区のこれからのまちづくり ～対面すれば、生まれる未来。～
岸井隆幸／吉見俊哉／入山章栄／齋藤精一／谷澤淳一
- SDGs×TECHNOLOGY
「都市と社会をより良くするテクノロジー」
齋藤精一／栗栖良依／風間博之／田口真司
- URBAN PLANNING × MOBILITY
「都市の未来のカタチを変えるモビリティ」
村山顕人／Christian Dimmer／佐々木悠祐
- ART × AREA VITALIZATION
「未来の都市のつながりとクリエイティビティ」
※カルチャー・ヴィジョン・ジャパン共催
後藤繁雄／杉本博司／川村元気

開催概要

主催：大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会
日時：2019年3月26日(火) 13:00～17:45
場所：東京商工会議所 ホール(丸の内二重橋ビル)
詳細・申込：https://face-omy.jp/



FACE
対面すれば、生まれる未来。

今をときめく個性と、出会い。
全く異なる文化に、向き合う。
自分にはない価値観に、刺激を受けよう。
そして、ともに未来の課題に、立ち向かう。
会わなくてはならない時代に、街を訪れて体験したいこと。
顔を合わせて、語り合う。
これからの街について。
これからの暮らしについて。
きっと、その先に、未来のヒントが待っている。

2019 3.26 TUE
13:00～17:45 東京商工会議所ホール(丸の内二重橋ビル)

もっと詳しい内容は右のQRコードからWEB ON!へ

大丸有協議会 検索 <http://www.otemachi-marunouchi-yurakucho.jp>



編集 後記

大丸有まちづくり協議会は本年度、設立から30周年を迎えました。ON!41号ではこのまちの30年を知る人々の想い、本誌42号ではこれからの担う若手社員達の想いをお届けしました。熱い想いを受け継ぎながらも成長し続ける大丸有に、今後もご期待ください!



大丸有協議会事務局/竹田



発行：一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会
〒100-8133 東京都千代田区大手町1-1-1 大手町パークビル
TEL.03-3287-6181 FAX.03-3211-4367
<http://www.otemachi-marunouchi-yurakucho.jp>

*本誌に関するご意見、ご感想等ございましたら右記までお寄せください。 machizukuri@otemachi-marunouchi-yurakucho.jp

「大丸有(だいまるゆう)」とは、大手町の「大」丸の内の「丸」有楽町の「有」からとった造語です。



本年は大丸有まちづくり30周年。
1年を通して当地区の魅力を発信するさまざまな取り組みを実施致します。



大丸有協議会発足30周年 大丸有エリアの若手ワーカーが まちへの想いを語る

大丸有協議会は2018年7月に設立30周年を迎えました。

過去2回のON!ではまちの建物や施設の歴史を紹介し、

また発足以前からこのまちを見続けてきた方々に登場していただき、
まちの建物やひと記憶の中から、このまちの進化・発展・変貌を辿ってきました。

今回は、設立30周年を締めくくる意味で、

このまちの未来の鍵を握る若手ワーカーに集まっていただき、

このまちへの想い、そしてご自身の抱負などを語っていただきました。

また、大丸有エリアの企業による、未来につながる先進的な取り組みや、

大丸有協議会30周年企画の総括もご紹介します。



東京国際フォーラム ①
営業部
木村 寛人 さん



東日本旅客鉄道 東京支社 ②
東京ステーションシティ運営PT
工藤 麻友美 さん



三井物産 ③
新本社ビル開発室
熊田 雄介 さん

大丸有の若手ワーカーが語る このまちへの想いと、これからのカタチ。

2018年に設立30周年を迎えた大丸有まちづくり協議会。

そこで、これからの30年を担う大丸有エリアの若手ビジネスパーソンに集まっていただき
座談会を開催。このまちに対する想いと今後の抱負を語り合っていました。



丸の内熱供給 ④
人事総務部
藤村 佳奈子 さん



司会
大丸有まちづくり協議会
吉岡 悠



入社前、大丸有エリアは 「遠い存在」

司会：今日はお忙しいなかお集まりいただきありがとうございます。本日、司会進行を務めさせていただきます大丸有まちづくり協議会の吉岡です。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、最初に自己紹介から始めましょう。

木村：東京国際フォーラムの木村と申します。ホール貸出業務に携わっており、主にコンサート、ミュージカル、試写会などのエンタメ系を担当しています。

工藤：JR東日本の工藤と申します。現在は東京ステーションシティ運営協議会で、駅を中心とした街の賑わいづくりに携わっています。過去には改札、新幹線ホームでの業務や内勤で行う構内放送など鉄道会社職員としての業務は一通り経験してきました。

熊田：私は三井物産に勤務しており、現在は2020年春に大手町で竣工を予定している36万平米に及ぶ複合再開発「(仮称)OH-1計画」の推進に携わっています。

藤村：丸の内熱供給の藤村と申します。当社は大丸有エリアの地下に大きな熱プラントを持ち、たくさんのビルに空調や給湯の元になるエネルギーを供給している会社で、私は人事と広報を担当しています。今日はよろしくお願いいたします。

司会：みなさん、入社前はこのまちにどんな印象を持っていましたか？

工藤：丸の内OLという言葉があったくらいですので、最初はちょっぴりお堅いビジネスの街なのかなって。大人ぶって銀座の街を歩くことはあっても、丸の内まではあまり来たことがありませんでしたね。

熊田：私は大学が大阪でしたので、まったく縁のない街でした。たまにテレビドラマやCMで観て「カッコいい街なのかな?」と。

藤村：私も就職するまではみなさんと同じように遠い存在でした。天気予報でたまに東京駅を見るくらいでしたので(笑)。

司会：藤村さんは入社2年目とのことですが、以前と印象は変わりましたか？

藤村：オフィスワーカーの街という印象は変わ

りませんが、それだけではないと思いました。趣向を凝らしたイベントをたくさん開催していて、仕事場というだけではない"ゆとり"を感じます。

司会：熊田さんはどのように印象が変わりましたか？

熊田：いろいろなテナントやイベント、イルミネーションをはじめとした季節に応じた装飾などがあって、カッコつけた言い方ですが「思ったより有機的な街だな」と。

大丸有でロックフェスを！

司会：工藤さんは東京駅に勤務されていますが、駅員さんの視点からまちの変化をどのように感じますか？



工藤：大丸有エリアの地図を作成して東京駅をご利用の方へお配りしているのですが、地図の内容が更新されるたびに「あ、また新しいビルができたんだ」って気づかれます。再開発がまだまだ続いて成長しているんだなって。

司会：ご自身でもまちを歩かれたりしますか？

工藤：はい。昨年のクリスマスに東京駅で「104人のサンタを探そう」というスタンプラリーを開催し、私自身も参加しました。ほかにもいろいろなイベントに顔を出すようにしています。

司会：ちょうど同じ日に丸の内です「Marunouchi Christmas PARADE 2018」を開催しましたので、来年は連携できたらいいですね。

工藤：そうですね。一緒に開催できたら素敵だと思います！

司会：東京国際フォーラムでもいろいろなイベ

ントを開催していますよね？

木村：はい。特に、世界最大級のクラシック音楽の祭典「ラ・フォル・ジュルネTOKYO2018」ではたくさんの方にお越しいただきました。イベント後、多くの来場者の方が「東京を観光したいのだけれど、どこがいいですか?」と聞かれていたのが印象に残っています。このようなイベントは、大丸有エリアを知っていただく絶好の機会なんだなと気づかされました。

司会：ちなみに、木村さんのおすすめスポットは？

木村：手前味噌になってしまいますが、東京国際フォーラムのガラス棟はぜひ見ていただきたいですね。上から見下ろすように撮った写真が「インスタ映えする」と人気のスポットになっています。みなさんのお気に入りのスポットはどこですか？

工藤：私は新緑の季節の丸の内仲通りが大好きです。木漏れ日を浴びながら歩いていると、ちょっとリオシャレな気分になって(笑)。

熊田：この仕事を始めてビルめぐりが趣味のひとつになったので、私もよく仲通りを歩いています。

藤村：仲通りはテラスで食事が出たり、おしゃれなパブリックアートが展示されていて日本離れした印象がある一方で、行幸通りで行われた打ち水や夏祭りでは日本の伝統文化に触れることができました。たくさんの人が並んで打ち水をする光景はとても壮観で印象に残っています。

司会：ちょっと視点を変えて、これからの30年のために“大丸有エリアがもっとこうなったらいいのにな”と思うことはありますか？ちなみに私は、もうちょっと夜遅くまで営業している飲食店があったらうれしいなと。1次会は丸の内でも、2次会は他の街へ移動しなければいけないことが多いので。

工藤：確かに2軒目でも使えるお店があると便利です。それと、フードコートやフリースペースがどこかにできたら嬉しいです。昼食を買い取るお店はありますが食べる場所がないのと混雑とで“昼食難民”になることがあります。



木村：フードコートと一緒にアミューズメントパークもどうですか？個人的に「SPA大手町」はとても

衝撃的でした。こんなところで温泉に入れるのかと(笑)。



熊田：私は昔バンドをやっていたので、個人的にはロックフェスのようなイベントがあると面白いと思います。

木村：いいですね！私はもともとコンサートが好きでこの世界に入ったので、ロックフェスのようなイベントが開催できたら最高です。

若い力で大丸有を もっと素晴らしいまちに！

司会：では、最後に今後の抱負を一言ずつ。私はこのまちで働く多くの人々がフェイス・トゥ・フェイスで交流することが大事なのかなと思っています。そうすることで、もっと楽しく働けて、もっといろいろな人と出会える街になるのかなと。そんなまちづくりに貢献していきたいと考えています。

工藤：最近は鉄道と駅と街が一体となって開発するケースが増えています。鉄道会社の職員ですのでいつ転勤になるかわかりませんが、違う街で働くことになっても大丸有に足を運びたいと思うようなまちづくりに貢献できたら幸いです。

藤村：大丸有エリアには様々な人の働くたくさんのビルがあり、その地下がエネルギーのネット

ワークで繋がっていることにロマンを感じています。当社がこの街の発展を地下から支えてきたことを、会社の広報活動を通じて、この街で働く人にもっと知っていただくことが今の目標です。



木村：東京国際フォーラムでのイベントは、その後大丸有エリアを散策する起点にもなっています。そのためにも営業として魅力的なイベントをより多く獲得して成功させ、街全体の発展に貢献していきたいですね。



熊田：自分の携わったビルが50年、60年とこの街に残り、多くの人の人生を彩っていくことが現在の仕事の魅力と思っています。竣工と同時にビルは僕の手から離れてしまっていますが、その後の多くの人々の想いに恥じないようチャレンジを続けていきたいと思っています。

司会：皆さんのような若い力で、このまちをもっともっと盛り上げて、さらに魅力的なまちになるといいですね。今日はありがとうございました。



一歩先へ行く 大丸有！

大丸有企業の先進的な取り組みをご紹介します

大丸有エリアではさまざまな企業が活動を行っています。

そこでは新しいまちの在り方に繋がるような、先進的な取り組みを行っている企業が数多くあります。

最新テクノロジーの導入はもちろん、働く社員のための「働き方改革」、社員間のコミュニケーション、

地域とのつながりを意識したオフィスづくりなど、

「一歩先へ行く」大丸有企業の取り組みをご紹介します。

大手町へ、本社移転のコンセプトは「むすぶ」「つながる」



日本郵政

本社移転推進室長 齋藤 隆司 さん

「大手町」へ本社機能(約6,000人)を移転しました。多くの大丸有地区の皆さんと交流していきたいと思っています。

50年ぶりの大事業である霞が関から大手町プレイスへの本社移転に際しては、日本郵政グループの本社機能を集約することで、業務効率・活力向上などにつなげ、グループ企業の価値向上を図ることを目的としています。また、「人」「情報」「地域」をむすぶ、「こころ(手紙)」でつながるをテーマにして「人」と「人」をむすぶ以下のようなオフィスを実現しました。

●2階「ゆうてまち(ゆうせい+おおてまち)保育所」

地域住民へも開放した定員30名の認可保育所でライフ・ワーク・バランスを実現。

●3階 郵政の歴史と手紙のよさをつなぐ「会議ゾーン(JP Session)」

地域とのコミュニケーションの場として利用可能。

●14階 郵便番号をテーマにした「会議室・食堂(JPキッチン)」

地域の人々もわかりやすい「郵便番号」をイメージした中会議室を設置。

また、食堂には懇親会可能なスペースや、社員が共同で使えるキッチンも完備。

●22階 地域と交流するための大会議室「前島ホール」

グループ内外の情報交流の場となる500人収容の大会議室を設置。



大手町プレイス



2階ゆうてまち



3階JP Session



14階JPキッチン

「Workplace by Facebook」で社内コミュニケーションの活発化



パレスホテル東京

総支配人 渡部 勝 さん

上質なサービスをご提供するにはチームワークが重要です。「Workplace」はメンバーたちが会話の延長のように楽しみながら使用することができ、チームワークの構築に有意義と考えています。

社内コミュニケーションツールとして「Workplace by Facebook」を活用しています。総支配人を含め、部門をまたがるメンバー50人ほどで使用しており、今後、本格導入を目指しています。当サービスは、Facebookの企業向けのものであり、日本では2017年から提供開始となり、世界でも、30,000社以上の企業・団体に利用されています。Workplaceは以下の点でFacebookと異なります。

- ・『友達』の概念がなく、社内メンバー全員とすぐに交流可能な環境
 - ・部内や部外メンバーとグループを作成して各案件毎に情報共有が可能
 - ・ビジネス利用を意識した高セキュリティ
- このツールの導入により、社内コミュニケーションの活発化とフラットな組織作りを目指し、社員一丸となってお客様へのおもてなしに取り組んでいきます。



Workplaceでメンバーたちが情報発信

ロボットを活用した豊かな街づくりに向けた取り組みをスタート



三菱地所 ビル運営事業部 兼 経営企画部

DX(デジタルトランスフォーメーション)推進室

統括 渋谷 一太郎 さん

大丸有から次世代型の施設運営管理モデルを世界に発信し、人とロボットが寄り添う街づくりを実現します。

まちのサービス及び運営業務を担う以下のような様々なロボットを段階的に導入し、人手不足社会の到来も見据え、人工知能(AI)等も活用した、より安全・安心・快適で、楽しいまちづくりを目指します。

●セグウェイを活用したコンシェルジュサービス

セグウェイに搭乗するコンシェルジュが、来街者への道案内や写真撮影のお手伝い。2018年4月から丸の内仲通りを巡回中です。

●自律移動型警備ロボット「SQ-2」を開発するSEQSENSE(株)に出資

新丸ビルにALSOKの警備ロボットを導入後、独自の3Dレーザーセンサーを持つスタートアップ企業に出資し、ロボット開発段階からの協業を開始しました。

●清掃ロボット「Whiz」三菱地所グループ物件に約100台順次導入

複数の清掃ロボットの実験を経て、実用性の高いロボットは当社グループの様々なアセットに一早く導入し、ビルメン業界の働き方改革も目指します。

●フランス製の運搬ロボット「EffiBOT」の導入

追尾運転機能や自動走行機能を有する運搬ロボットを商業施設に導入し、館内物流や貨物運搬のサポートを開始。将来的な屋外への自動搬送も見据え検証中です。



セグウェイでの
コンシェルジュ



警備ロボット
「SQ-2」



清掃ロボット
「Whiz」



運搬ロボット
「EffiBOT」

大丸有協議会30周年を記念して行われたさまざまな事業をご紹介します

■ OPEN CITY MARUNOUCHI

大丸有地区の普段は入れないスポットや知られていない施設などを公開し、新しいまちの姿を存分に体感していただくためのツアーイベントを開催。2018年5月、10月と12月に開催した35のツアープログラムに対して約1,000名にご参加いただき、事後アンケートでは90%を超える方々に「非常に楽しかった」とお答えいただきました。



丸の内仲通りアートツアー



ザ・ペニンシュラ東京ホテル探検



東京ステーションホテル歴史探訪ツアー



探検!JPタワー!



地下空間探検



ビジネス街の緑発見ツアー



近代建築めぐり



東京会館オープン前探検



東京国際フォーラム散歩



読売新聞を見に行こう

■ WHITE WIGHT NAKADORI

丸の内イルミネーションの点灯式と二重橋スクエアのオープン初日でもあったこの日、Marunouchi Bright Christmas 2018のテーマである「北欧」にトーンを合わせ、丸の内二重橋ビル前の仲通りではパフォーマーやミュージシャン、北欧の神話である13人のサンタクロース等がエンターテインメント空間を創出しました。また、丸の内パークビル前の仲通りでは、ロングテーブルを配置し、丸の内シェフズクラブのシェフ達がコース料理、アラカルト料理を提供し、晩さん会を想起させる空間を創出しました。白を基調とした装飾やイルミネーションにも彩られ、華やかで賑わいに溢れた1日となりました。
(2018年11月8日 開催)



■ 丸の内クリスマスパレード2018



大手町・丸の内・有楽町で働くエリアワーカー自ら、クリスマスシーズンの街を盛り上げ、歌やダンスで街を訪れるお客様をおもてなしするパレードです。2008年より有志で開始され11回目を迎える今回は、今年設立30周年を迎えた大丸有協議会共に開催し、過去最多となる総勢300名以上の就業者サンタクロースが集いエリア一体となってクリスマス気分を盛り上げました。
(2018年12月21日 開催)

■ 丸の内クラウドファンディングプロジェクト



(2018年10月「まるびあ」お披露目会)



(2018年7月 和ルミネーション)

「丸の内朝大学」で開講した「まちづくりプロデューサークラス」の受講生が主体となり、「丸の内クラウドファンディングプロジェクト」を企画。第一弾として、和傘を使ったイルミネーションイベント「和ルミネーション」を実施。第二弾として、丸の内エリア限定のクラフトビール「まるびあ」を製造。いずれも達成率は100%をはるかに越え大成功に終わりました。